

特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察 特殊報第1号

- 1 病害虫名 トルコギキョウえそ輪紋病
- 2 病原ウイルス アイリスイエロースポットウイルス *Iris yellow spot virus*; IYSV
- 3 発生作物 トルコギキョウ
- 4 発生場所 長崎市三和町
- 5 発生確認の経過

平成21年5月上旬定植の施設栽培トルコギキョウにおいて、6月下旬に葉にえそ輪紋、えそ斑を生じる症状が発生した。長崎県病害虫防除所においてRT-PCR法によるウイルス検定を行ったところ、IYSVが検出された。本病の発生は本県では初めてであり、発生を確認している面積は現在10aである。

本ウイルスによる国内での病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで初確認され、トルコギキョウでは平成13年に佐賀県で確認された。このほか、タマネギ、ニラ、ネギ等での発生が報告されている(表1)。

6 病徴

初期には黄斑を生じ、えそ斑(円形~不定形、小斑点~大型斑)が葉及び葉の付け根部に生じる。株によっては葉の湾曲を生じ、病気の進行に伴い萎凋する場合がある。葉の黄化や茎のえそ条斑、花弁の斑入り等の症状も報告されている。

黄化えそ病(*Tomato spotted wilt virus* : TSWV)やえそ斑紋病(*Impatiens necrotic spot virus* : INSV)による病徴と酷似しているため、病徴だけの判別は困難である。



図1 感染株の状況



図2 葉のえそ斑



図3 葉、茎のえそ条斑

7 伝染方法

- (1) 本ウイルスは、ネギアザミウマによって媒介される。同じトスポウイルス属であるTSWVやINSVを媒介するミカンキイロアザミウマでは媒介されない。
- (2) ネギアザミウマは、幼虫時にIYSVに感染した植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、終生伝播能力を保持するが、経卵伝染はしない。
- (3) 種子伝染、土壌伝染はしない。また、汁液伝染はほとんどしないため、作業管理により伝染する可能性は、極めて低い。

8 防除対策

(1) 感染源の持ち込み防止と除去

- ア 発病株の早期発見に努め、発見した場合は速やかに抜き取って施設外に持ち出し、土中に埋めるか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- イ 収穫後の残渣や圃場周辺の雑草はネギアザミウマの生息・増殖源となるので、除去し適切に処分する。

(2) ネギアザミウマの侵入防止と薬剤防除

- ア 育苗期から本圃にかけて、ネギアザミウマの防除を徹底する。薬剤による防除を行う場合は、薬剤への感受性低下を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用を避け、ローテーションで使用する。
- イ ハウス開口部に防虫ネット(0.5 mm以下)等を設置し、施設内へのネギアザミウマの侵入を防ぐ。
- ウ 青色粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- エ 栽培終了時に密閉陽熱(蒸し込み)処理等を行い、ネギアザミウマを死滅させて、保毒虫の施設外への分散を防ぐ。

(3) その他

本病と疑われる症状が発生した場合は、病害虫防除所や最寄りの振興局に連絡する。

表1 IYSVの感染が報告されている植物

科名	植物名
リンドウ科	<u>トルコギキョウ</u>
ユリ科	<u>ネギ</u> 、 <u>タマネギ</u> 、 <u>ニラ</u> 、 <u>ラッキョウ</u> 、 <u>ニンニク</u> 、 <u>テッポウユリ</u> リーキ、バルビネ(ブルビネ)、ジャノヒゲ、オオバジャノヒゲ
アルストロメリア科	<u>アルストロメリア</u>
ヒガンバナ科	<u>アマリリス</u> 、 <u>ユーチャリス</u> 、クンシラン(クリビア)、スイセン
アヤメ科	ダッチアイリス
ヒユ科	センニチコウ
アカザ科	ホウレンソウ
アブラナ科	ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー、ミズナ、イヌガラシ スカシタゴボウ、タネツケバナ、ナズナ
セリ科	ニンジン
カタバミ科	カタバミ
キク科	チチコグサモドキ、ノボロギク
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ、トキワハゼ
シソ科	ホトケノザ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スミレ科	パンジー
ナデシコ科	コハコベ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ
マメ科	ヤハズエンドウ

下線は国内で特殊報により報告されているもの

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027